

教員名	竹村 和子 (TAKEMURA Kazuko)
所属	人間文化研究科比較社会文化学専攻
学位	人文科学博士 (2003 お茶の水女子大学) 文学修士 (1980 お茶の水女子大学)
職名	教授
URL / E-mail	takemura@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

ジェンダー / セクシュアリティ / 暴力 / 表象 / 英語圏

◆主要業績

総数 (10) 件

- ・「未来のバトラーとの対話に向けて」『思想』989号(2006)、岩波書店、16-25頁
- ・「マゾヒスティック・エイジェンシーの(不)可能性——アブグレイブ写真・『ソドムの市』・『ドッグヴィル』におけるプンクトゥムと暴力」『立命館言語文化研究』18巻2号 (2006)、立命館大学言語文化研究所、3-13+54頁
- ・「〈テロリストの身体〉のその後——『カサマシマ公爵夫人』の終わり方」『英語青年』152巻6号(2006)、研究社出版、337-40頁
- ・「『新しき』共同体とジェンダー／セクシュアリティ——トランスパシフィック・テクスチュアリティ」(内堀奈保子と共著)『歴史・国家・女性——韓・日比較女性史のための試み』(2006)、梨花女子大学 (韓国、ソウル)、153-162頁
- ・"What if : Life, People, Society," Newsletter, no.25 (2007), , NHSJ, pp.11-14

◆研究内容

《親密圏／公共圏》の考察を、主に両者のインターフェイスに発生する「暴力」に焦点をあて、理論と表象研究の両面から取り組んだ。具体的には、①主体構築における暴力隠蔽のメカニズム。②フロイト再読で展開されているマゾヒスティックな自己破砕の位置づけ。③ジェンダー／セクシュアリティ理論における共社会性の追求。④テロリスト表象の系譜 (具体的には米国最初のテロリスト小説である H. James の作品分析)。⑤アメリカ文学と反知性主義の関係。⑥日米の実験的共同体の表象比較。⑦20世紀前半の日米の作家における自己表象の限界。⑧COE 事業におけるジョアン・コプチェック講演の企画運営などである。

◆教育内容

「米文学史」 "アメリカ"や"文学史"とは何かという問題意識を醸成。講義と具体的なテキスト分析とビデオ映像を組み合わせた授業。

「特別演習 (英米文学研究方法論1&2)」 文学分析の方法論を身につけるために、いくつかの批評理論を取り上げ、講義および文学作品や映像作品の分析への応用を習得。

「英米文学演習 (初級)」 H Melville の"Bartleby, the Scrivener"を精読し、文学研究の面白さと意味を追求。資本主義とセクシュアリティの両面からの分析を学ぶ。

「英文学特殊講義 (比較文化)」 米国が近代国家として成立する過程の文学／文化表象を扱う。

「卒論指導」：卒論の指導。

「ジェンダー学概論」 さまざまな批評理論とジェンダー研究がどのように交差し、新しい視野を切り拓いてきたかを考える。

[大学院]

「批評理論特論」テロリズムの定義の政治的・社会的・文化的意味の変遷を踏まえつつ、暴力の理論化を考える。

「批評理論演習」テロリズムの表象の歴史的推移を検証・分析。

◆Research Pursuits

Reexamination of the intimate/public spheres in terms of feminist theory and of representations of violence. The following are the topics I dealt with during the 2006 academic year.

1. Violence concealed in ego-formation.
2. The relationship between "masochistic self-shuttering" and self-building.
3. Possibilities of new "socius" from the perspective of recent gender/sexuality studies.
4. A genealogy of literary representation of terrorism, which includes its early text by Henry James.
5. The nexus between anti-intellectualism and American literature.
6. Comparative analysis of representations of experimental communities in Japan and the US.
7. Comparative analysis of self-portraits by Japanese and American writers in the first half of the 20th century.
8. Arrangement of Joan Copjec's lecture at Ochanomizu University.

◆Educational Pursuits

Teaching undergraduates American literature, critical theory, and feminist studies and, to graduates, critical approaches to terrorism and violence.

1. History of American Literature: Rethinking America-ness through its literary representations. Lectures, textual analyses and video-screening.
2. Seminar 1 & 2 (Literary Theory): Training critical thinking to be required for writing dissertations. Lectures, presentations by students, and discussion.
3. Seminar: Reading Herman Melville's "Bartleby, the Scrivener," focusing on capitalism and sexuality described there.
4. Lecture: Tracing the process of nation building through literary texts and films in the early modern era in the U.S.
5. Supervision for dissertations.
6. Lecture: Gender/sexuality theories.
8. [to Graduates] Advanced Seminar and Lecture: Theoretical approaches to terrorism and violence and examination of literary texts of terrorism.

◆共同研究可能テーマ

- ・「暴力の再布置」の研究：政治学・社会学・哲学・心理学・自然科学と。
- ・「近代日本文学と英語圏文学の交差」：日本文学・日本史・日本思想史。
- ・「フェミニズム理論と実践」：男女共同参画センターや民間のNPと

◆将来の研究計画・研究の展望

以下の二つのテーマを追求する。

1. 近年顕著に見られる暴力について、これを近代的自己形成の変容（ポスト近代的自己の出現）と捉え、暴力の再布置の理論化を推し進めて、領域横断的なポスト人文学の可能性をさぐる。
2. グローバル化する英語圏文学（ハリウッド映像やニュース報道も含む）の位置づけ、および近代日本文学との交差の再定位。

◆受験生等へのメッセージ

いつも人は、「前例のない時代」を生きています。今まで「当たり前」だった事柄が、当たり前ではなくなるのです。けれども現代は、とくに世界全体が大きく様変わりしようとしているときです。国境を超えて人やモノやマネーや情報が動き、人の身体のパーツも徐々に変換可能・変更可能になっていき、わたしたちが得る情報も電子テクノロジーを介して一挙に拡大・変質していますね。このような、歴史の転換期にこそ、人が本当に自由に、平等に、幸福に生きていけるような知恵を養うことが必要です。

世界では教育を受けられない人たちが、残念ながらたくさんいます。高等教育はなおさらです。ぜひみなさんが、〈深い思考〉と〈十全なアカデミックな訓練〉と〈広く公正な視野〉を、大学時代に身につけることを心から望んでいます。社会に世界に発信する女性になってもらいたい、と思って教育に携わっています。

大学院を志す人は、『研究する意味』（東京図書）に文章を書きましたので、それを参考にしてください。